



現場造成杭の使用材料

コンクリート	Fe	● 普通ポルトランドセメント    ■ 高炉セメントB種			
	スランブ	cm	水セメント比	%以下	単位セメント量    kg/m3以上
鉄筋	主筋	● SD295A    ■ SD345    ● SD390    ■ SD490			
	フープ	● SD295A    ■			
鋼管		● STK400    ■ STK490			

● 杭径、杭の許容支持力及び本数 (※杭状況による)

杭径(～底底径)	杭先端	長期許容支持力 (kN)	短期許容支持力 (kN)	本数	備考
	GL- m				
	GL- m				
	GL- m				
	GL- m				
	GL- m				
	GL- m				

※ 杭底径は施工を示す。

- 杭径、杭の許容支持力の確認
  - 杭長決定用先行杭（杭長決定用先行杭は所定の長さより1mかつD/2(D: 杭径、杭底杭にあっては杭底径)以上長くする。）
  -
- 孔壁測定
  - 行なう（全ての杭符号について1本以上行い、2方向に対し測定を行なう。）
- ネガティブフリクション対策
  - SL塗布
  -
- 工事監理者の承認を必要とするもの
  - 施工計画書
  - 材料規格証明書または試験成績書
- 杭工事が完了した時点で、杭の施工偏心を計測し、施工結果報告書を速やかに工事監理者に提出すること
- 杭工事は「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置（平28国交告示第 468 号）」に準拠し、適切な工事監理を行うこと

- 地盤改良
  - 所要長期地耐力 kN/m<sup>2</sup>
  - 工法
    - 置換コンクリート（ラップルコンクリート）
      - Fe15
      - Fe18
    - 浅層混合処理工法（固化剤添加量や施工後の確認方法は別途仕様書による。）
    - 深層混合処理工法（固化剤添加量や施工後の確認方法は別途仕様書による。）
    - 湿式柱状改良工法（Fe=1,300kN/m<sup>2</sup>）
    - トップベース工法

- 直接基礎
  - 支持層 層
  - 地盤の許容応力度

長期

kN/m<sup>2</sup>

短期

kN/m<sup>2</sup>

部 位	捨てコンクリート 厚 (mm)	砕 石 厚 (mm)	備 考
直 接 基 礎 下	● 50 ● 80 ●	● 50 ● 150 ● 600	
杭 基 礎 下	◎ 50 ● 80 ●	◎ 50 ● 100 ●	
基 礎 ス ラ ブ 下	● 50 ● 80 ●	● 50 ● 100 ●	
基 礎 梁 下	◎ 50 ● 80 ●	◎ 50 ● 100 ●	
土間コンクリート下(屋内)	● 60 ● 80 ●	● 50 ◎ 150 ●	
土間コンクリート下(屋外)	● 60 ● 80 ●	● 50 ◎ 150 ●	

## 鉄筋コンクリート工事

◎ コンクリートはJ I S 認定工場の製品とし施工に関しては J A S S 5（2 0 1 8 年版）による。  
 ◎ セメントはJ I S R 5 2 1 0 の普通ポルトランドセメントを標準とする。  
 ◎ 調合計画は工事開始前に工事監理者の承認を得ること。

水セメント比の最大値	<div> <div>● 50%</div> <div>● 55%</div> <div>◎ 60%</div> </div>	
単 位 水 量 の 最 大 値	<div> <div>● 175kg/m<sup>3</sup></div> <div>● 180kg/m<sup>3</sup></div> <div>◎ 185kg/m<sup>3</sup></div> </div>	
空 気 量	4.5%±1.5% (管理値4.0〜6.0%)	

- ◎ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
- ◎ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごと撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合、1 日1 回以上とし、1 回の検査における測定試験は、同一資料から取り分けて3 回行い、その平均値を試験値とする。
- ◎ 構造体コンクリート 現場の圧縮強度試験供試体（J A S S 5 T − 6 0 3）は、現場水中養生または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。また、打ち込み量が1 5 0 立方mをこえる場合は1 5 0 立方mごとまたは、その増数ごとに一回を標準とする。1 回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3 台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合、1 回当たり6 本以上とし、そのうち4 週用に3 本を用いる。

- ◎ ポンプ打ちコンクリート は、打ち込み位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリート が分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート 圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が2 5 ℃未満の場合は1 5 0 分、2 5 ℃以上の場合は1 2 0 分以内とする。
- コンクリートの打込み方法は、柱、梁の鉛直部材と床、梁の水平部材とを同時に打設する工法とする。締固めは、主として棒形振動機を用いる。（JASS5 7節に準拠）
- ◎ 打継ぎ部は弱材齢時にレイトラン及び脆弱なコンクリートをワイヤーブラシ等で除去し、健全なコンクリート 面を露出させ、十分水湿しを行う。（ JASS5 7節に準拠）
- ◎ コンクリートの打込み後、3日間以上または圧縮強度が10kN/mm2以上になるまで湿潤養生を行う。また、5日間以上は2℃以上にコンクリートの温度を保つ。（ JASS5 8節に準拠）
- ◎ 鉄筋はJ I S G 3 1 1 2 の規格品を標準とする。
- ◎ 鉄筋の配筋は「鉄筋コンクリート 造配筋指針・ 同解説（2021年版）」に準拠する
- ◎ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さ は『鉄筋コンクリート 構造配筋標準図（ 1 ）（ 2 ）』または『 壁式鉄筋コンクリート 構造配筋標準図（ 1 ）（ 2 ）』による。

鉄筋の継手方法

◎ 重ね継手 使用径 D10〜D16

◎ ガス圧継手 使用径 D19〜D32

● 溶接継手 使用径

● S A 級

● A 級

技量試験

● 必要

● 不要

● 機械式継手 使用径

● S A 級

● A 級

鉄筋の定着方法

◎ 折曲け定着 使用径 D10〜D32

● 機械式定着 使用径
- ◎ D 1 9 未満は、すべて重ね継手とする。継手（D 1 9 以上）をガス圧接とする場合は、日本圧接協会『鉄筋のガス圧接工事標準仕様書』による。
- ◎ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと（2 0 0 箇所を越えるときは、2 0 0 箇所ごと）に1 回行い、高カボルト 1 回の試験は5 本以上とする。

- 外観検査

◎ 有

● 無

引張試験

● 有

◎ 無

超音波探傷

◎ 有

● 無
- ◎ ガス圧接部の外観検査、抜き取り検査により不合格部分が発見された場合、以下の措置を行うこと。

(1)圧接部の膨らみの直径や長さ不足 → 所定の形状になるまで再加熱と再加圧

(2)圧接部前後の折れ曲がり → 再加熱による修正

(3)鉄筋重心軸の偏芯、ずれ、加熱部の割れ → 圧接不良箇所を取り切って再圧接

(4)超音波探傷検査において1 ロット 2 箇所以上の不合格、または引張試験における圧接面からの破断 → 残り全ての圧接部に対し超音波探傷試験を実施し、不合格箇所については再圧接

ただし、再圧接に先立ち、工事監理者との協議が必要
- 上記のいずれの場合にも、不具合の発生原因を明確にし、以降の施工に反映させる事

- ◎ 柱の帯筋（フープ筋）の加工

◎ H 型（タガ型）

● W 型（溶接閉鎖型）

● S 型（スパイラル型）
- ◎ 材料 合板厚12 mmを標準とする。
- ◎ 型枠存置期間

種 類	せ き 板		支 柱		
部 位	基礎、梁側、柱、壁		ス ラ ブ 下		梁 下
セメントの種類	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 混合セメント A種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 混合セメント A種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 混合セメント A種
存 置 期 間 の 平 均 気 温	コンクリートの材齢（ 日）				
1 5 ℃ 以 上	2	3	8	17	28
5 ℃ ～ 1 5 ℃	3	5	12	25	28
5 ℃ 未 満	5	8	15	28	28
コンクリートの圧 縮 強 度	5N/mm <sup>2</sup>		設計基準強度の85%以上		設計基準強度の100%以上

- 注意事項

1) 片持梁、庇、スノビ 9.0m以上の梁下は、工事監理者の指示による。

2) 大梁の支柱の盛りかえは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。

3) 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート 打ち後とする。

4) 盛りかえ後の支柱顶部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

5) 支柱の盛りかえは、小梁が終わってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り 払って、盛りかえしてはならない。

6) 上表以外のセメント を使用する場合は工事監理者の指示による。

- ◎ コンクリート 及び鉄筋の試験は、監理者の指定する第三者機関で行うこと。

## 鉄骨工 事

- 鉄骨工事は指示のない限り下記による
  - 日本建築学会 『J A S S 6 』『鉄骨精度検査基準』『鉄骨工事技術指針』
  - 鋼材倶楽部『建築鉄骨工事施工指針』
- 工事監理者の承認を必要とするもの
  - 製作工場 鉄骨溶接性能評価が、（ ● S ● H ● M ● R ● J ）グレード以上の工場とする。
  - 製作要領書 ● 工 作 図 ● 施工計画書 ● 製作工場による社内検査表
  - 材料規格証明書または試験成績書 （ ● 鋼材 ● 高力ボルト ● スタッポルト ）

- 工事監理者が行う検査項目 （工事監理者が行わなかった検査項目の検査結果についても、工事監理者に報告すること）
  - 現 寸 検 査 ● 組立・ 開先検査 ● 製 品 検 査 ● 建 方 検 査
- 接合部の溶接は下記によること
  - 日本建築学会『溶接工作規準、 同解説 I、 II、 III、 IV、 V、 VI、 VII、 VIII、 IX』
  - 日本建築センター『冷間成形形鋼管設計・施工マニュアル』

角 形 鋼 管 柱	● 現場溶接			
H 形 鋼 梁	フランジ	● 高力ボルト接合	● 現場溶接	ウェブ ● 高力ボルト接合 ● 現場溶接
H 形 鋼 柱	フランジ	● 高力ボルト接合	● 現場溶接	ウェブ ● 高力ボルト接合 ● 現場溶接

● 溶接部の検査 （ 検査結果は必ず工事監理者に報告すること）				
検 査 箇 所	検 査 方 法	検査率または検査数		備 考
		工場自主検査	第三者機関	
完全溶込み溶接部	超 音 波 探 傷 試 験	%	%	
	外 観（目 視）試 験	%	%	
	マクロ試験・その他	%	%	

- 注意事項

1) 第三者検査機関とは、建築主、工事監理者または工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社を示し、（社）日本溶接協会のC I W 認定のU T の認定を有する事業所とする。検査費用は施工者の負担とする。

2) 現場溶接部については原則として第三者機関による全数検査を行うこと。
- 上記以外の溶接部(隅肉溶接部など)の検査は、製作工場により全数に対し外観(目視)検査を行うこと。
- 高力ボルト は『 J I S B 1 1 8 6 の高力ボルト 』を 標準とする。 摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2 倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらかさが5 0 . S 以上である場合、赤さびは発生しないままでよい。
- 高力ボルト の締付けに使用する機器はよく 調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2 度締めとする。締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。
- 防錆塗装の範囲は、高力ボルト 接合の摩擦面及びコンクリート で被覆される以外の部分とする。錆び止めペイントは、J I S K 5 6 7 4、2 回塗りを標準とする。
- 現場における高力ボルト 接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆び止めペイントを使用し2 回塗りとする。
- 意匠図による。

## 建 築 設 備 に 関 す る 構 造 方 法

- 建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。（建築基準法施行令第129条の2の3の事項）
  - ◎ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
  - ◎ 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
  - ◎ 床スラブ内に設備配管等を埋め込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を5 cm以上とする。
- 建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。（建築基準法施行令第129条の2の4の事項）
  - ◎ 建築設備（昇降機を除く）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。
  - ◎ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は建築物の構造耐力上主要な部分に緊結すること。
- 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリート ブロック 造又は無筋コンクリート 造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。
- 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートの かぶり 厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート 造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート 造、れんが造、石造若しくはコンクリート ブロック 造とすること。
- ◎ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は以下の構造方法とする。
  - ◎ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
  - ◎ 建築物の部分貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
  - ◎ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
  - ◎ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり 金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
- ◎ 給湯設備は
  - ◎ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
  - ◎ 周囲に丈夫な壁または囲いを設けること。
  - ◎ 地震時の転倒、移動等により人が危害を受けるおそれがないこと。
  - ◎ 告示第1389号(改正1447号)で定められたアンカーボルト 等で緊結すること。
- ◎ 法20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあつては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとするこ

工事名称	東村産業支援住宅新築工事【C棟】	工事年度	令和8年度
工事場所	沖縄県東村字有銘499番2	図面名称	建築工事(構造)特記仕様書(2)
発注機関	東村役場 農林水産課	縮 尺	A1＝1：non A3＝1：non
摘 要	図面番号 S－O O 2		
検 印	管理建築士	設 計	製 図
	設 計 者	名 称	有限会社 結 設 計
		資格者氏名	又吉 大輔 第369342号
		登 録 番 号	第123-3734号
		所 在 地	名護市宮里三丁目29番15号

ライサスー級建築士事務所 戸 倉 雅 幸  
一級建築士 建設大臣登録 第 250479 号  
構造設計一級建築士証 交付番号 第 7531 号

# 壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

## 1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
- d・・・異径棒鋼の呼び名に用いた数値    D・・・部材の成    R・・・直径    @・・・間隔  
r・・・半径    C・・・中心線    Qo・・・部分間の内法距離    ho・・・部材間の内法高さ  
ST・・・あばら筋    HOOP・・・帯筋    S.HOOP・・・補強帯筋    φ・・・直径

## 2. 鉄筋加工、かぶり

### (1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折まげ角度90°はスラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込む形および梁のキャップ体にも用いる。
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(*4d以上)	8d以上(*4d以上)	

\*片持ちスラブ上端筋の先端鉄筋は、SD295、SD345を使用する。  
折曲げ内法寸法Rは、D16以下は、3d以上、D19以上は4d以上

### (2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法寸法 (R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SD295、SD345	D16以下	3d以上
	上記以外の鉄筋	SD295、SD345	D19～D25	4d以上
			D16以下	6d以上
			D19～D25	6d以上

### (3) 鉄筋の定着長さ

コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	定着の長さ			
	一般 (L <sub>2</sub> )		下端筋 (L <sub>3</sub> )	
	SD295	SD345	小 梁	スラブ
			SD295 SD345	SD295 SD345
18	40 d または 20 d フックつき	40 d または 20 d フックつき		
21	35 d または 20 d フックつき	40 d または 20 d フックつき		
24	35 d または 15 d フックつき	40 d または 20 d フックつき	20 d または 10 d フックつき	10 d かつ 150mm 以上
27	30 d または 15 d フックつき	35 d または 20 d フックつき		
30～36	30 d または 15 d フックつき	35 d または 20 d フックつき		

#### 定 着

1. 末端のフックは、定着の長さに含まない

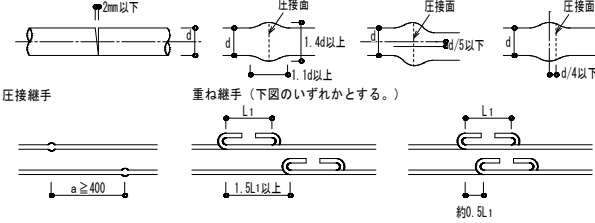
### (4) 鉄筋の重ね継手長さ

コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	重ね継手の長さ (L <sub>1</sub> )	
	SD295	SD345
18	45 d または35d フックつき	50 d または35d フックつき
21	40 d または30d フックつき	45 d または30d フックつき
24～27	35 d または25d フックつき	40 d または30d フックつき
30～36	35 d または25d フックつき	35 d または25d フックつき

#### 継 手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない。
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする。

#### ガス圧接形状



### (5) 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

構 造 部 分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
屋根スラブ・床スラブ・片持ちスラブ**・非耐力壁	20*	30*
耐力壁・壁梁・小梁・片持ち梁	30*	40*
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分	40	50
基礎つなぎ梁	60	70
基礎 (掘コンクリート部分は除く)		

[注] \* 耐久性上有効な仕上げのない場合、屋内・屋外にかかわらず10mm増しとする。  
また、軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。  
\*\* 片持ちスラブ先端は、最小かぶり30mmとする。 [8-(1)の㉔参照]

### (6) 鉄筋のあき

- a. 異径鉄筋では呼び名に用いた数値の1.5d以上
- b. 粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mm以上



### (7) 鉄筋のフック (a～fに示す鉄筋の末端部にはフックをつける。)

- a. 壁長が1 m以下の壁横筋の末端
- b. あばら筋、帯筋
- c. 煙突の鉄筋
- d. 柱、梁 (基礎梁は除く) の出す部分の鉄筋 (右図参照)
- e. 単純梁の下端筋
- f. その他、本配筋標準に記載する箇所



## 3. 杭

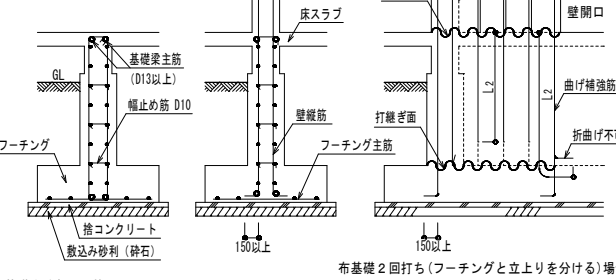
(地震力等の水平力を考慮して、別途検討すること。)

### (1) PRC杭、又はPHCの全てに補強を行う

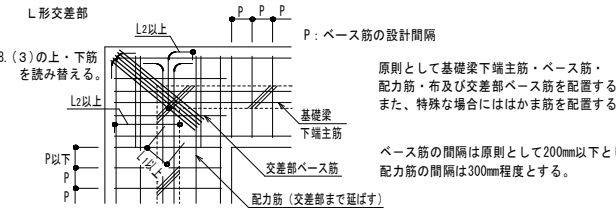
所定の位置に止まった場合		所定より低く止まった場合	
杭 径	300 φ・350 φ    400 φ	450 φ    500 φ    600 φ	
補強筋	6-D13    8-D13	10-D13    8-D16    10-D16	
HOOP		D10-@150	

## 4. 基礎

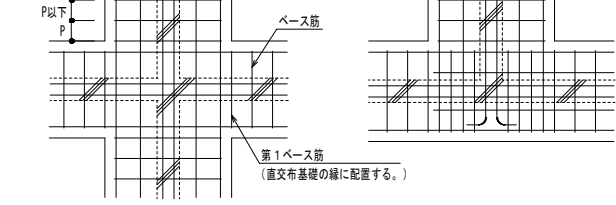
### (1) 布基礎



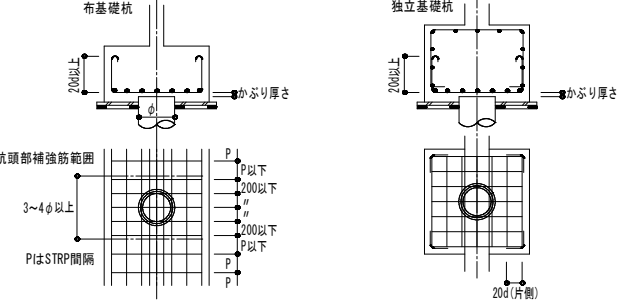
### 布基礎交差部の配筋 (平面)



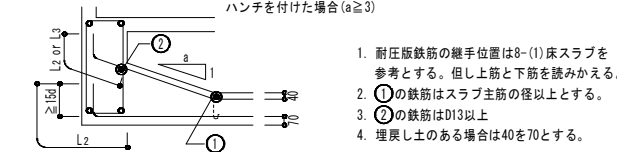
### 十形交差部



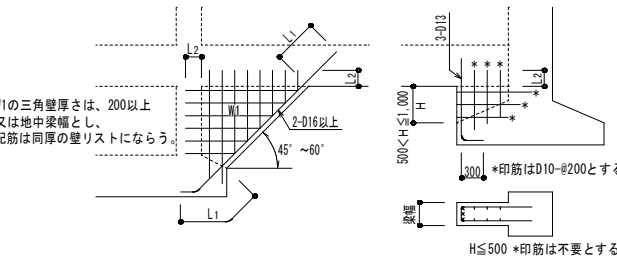
### (2) 杭基礎



### (3) ベタ基礎

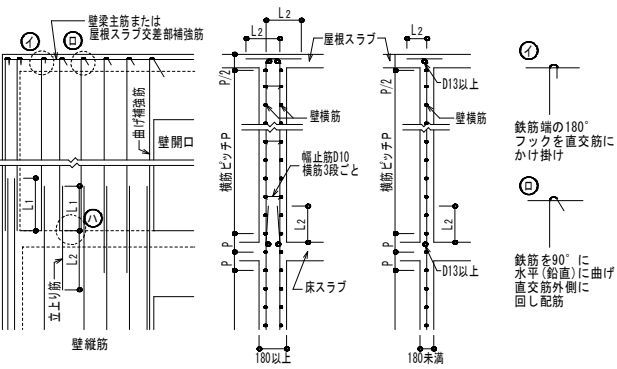


### (4) 基礎接合部の補強

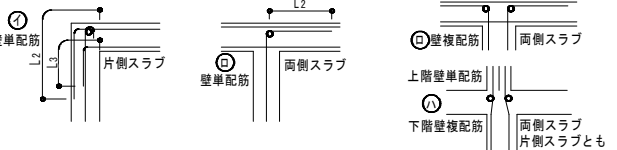


## 5. 耐力壁

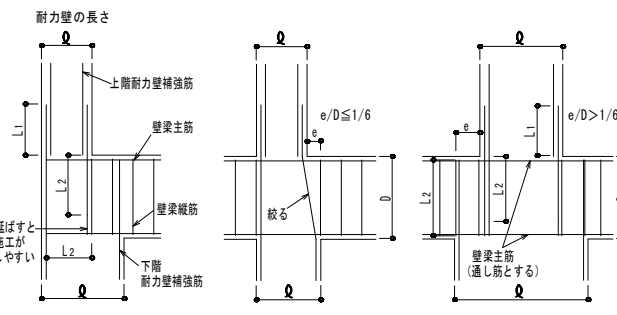
### (1) 縦筋・曲げ補強筋・縦補強筋の定着



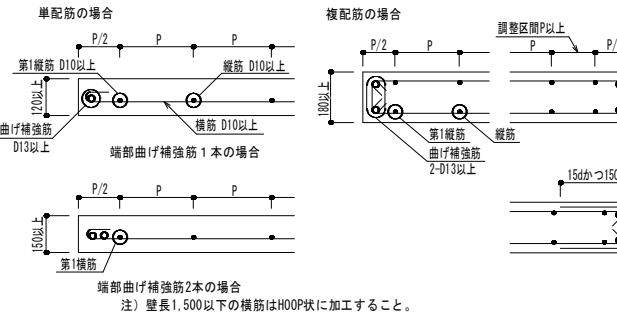
### 耐力壁と床・屋根スラブ



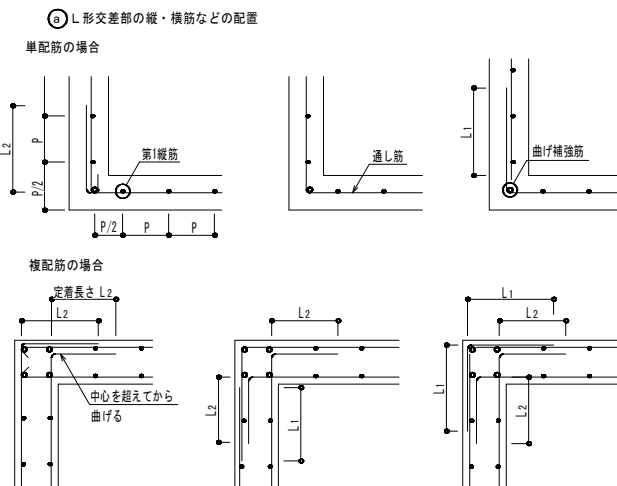
### (2) 上・下階耐力壁の各種配置



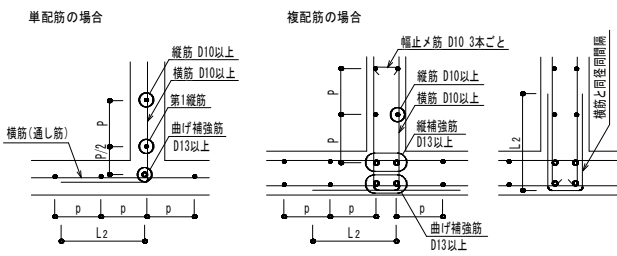
### (3) 耐力壁の縦・横筋の配置



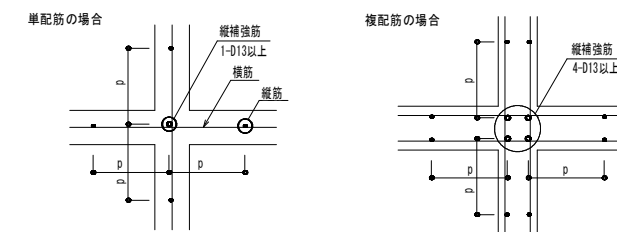
### (4) 耐力壁が交差する場合 (平面)



### ㉔ T形交差部の縦・横筋の配置



### ㉕ 十形交差部の縦・横筋などの配置



## 6. 使用可能な鉄筋の最大径 (標準)

部位	耐力壁	壁がりよう小梁	布基礎基礎基礎梁	スラブ	非耐力壁	欄
構造種別	D22	D22	D25	D16	D16	D16
壁式鉄筋コンクリート造						

ライサ一級建築士事務所 戸 倉 雅 幸  
一級建築士 建設大臣登録 第 250479 号  
構造設計一級建築士証 交付番号 第 7531 号

工事名称	東村産業支援住宅新築工事【C棟】	工事年度	令和8年度
工事場所	沖縄県東村字有銘499番2	図面名称	壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)
発注機関	東村役場 農林水産課	縮 尺	A1=1: non A3=1: non
摘 要		図面番号	S-O-O-3
検 印	管理建築士	設 計	製 図
		名 称	有限会社 結 設 計
		資格者氏名	又 吉 大 輔 第369342号
		登 録 番 号	第123-3734号
		所 在 地	名護市宮里三丁目29番15号





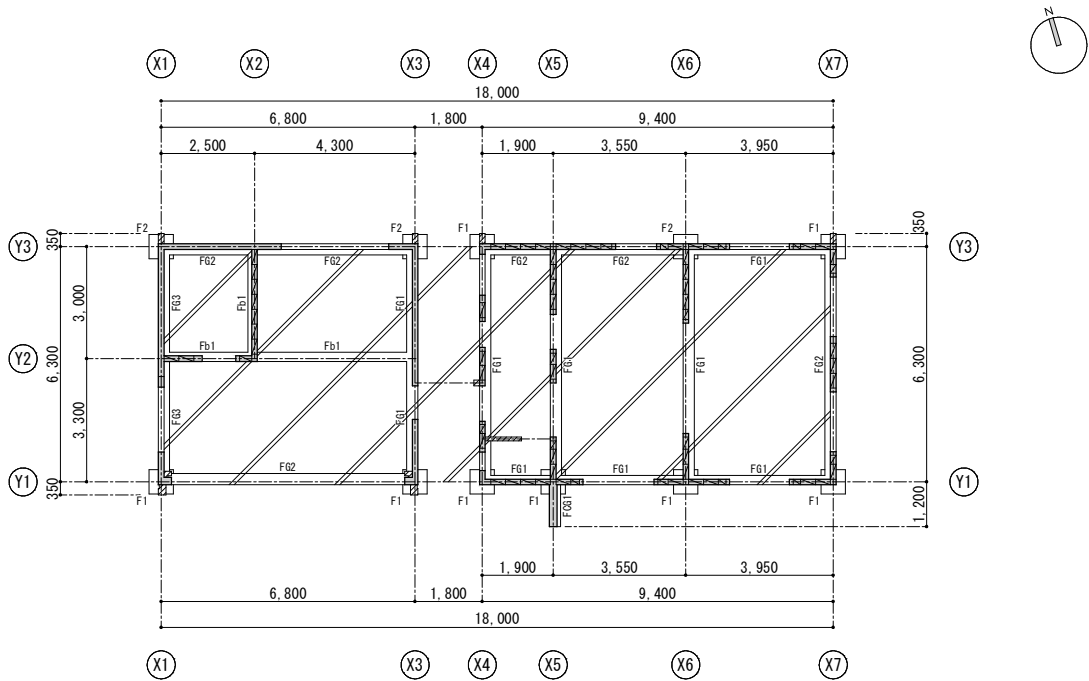
## 調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

備 考

注1) 試料採取方法の記号  
T: シンウォールサンブラー      F: フォイルサンブラー  
P: 標準吸入試験用サンブラー      O: オーガー  
D: デニソン型サンブラー

ライサス一級建築士事務所 戸 倉 雅 幸  
一級建築士 建設大臣登録 第 250479 号  
構造設計一級建築士証 交付番号 第 7531 号

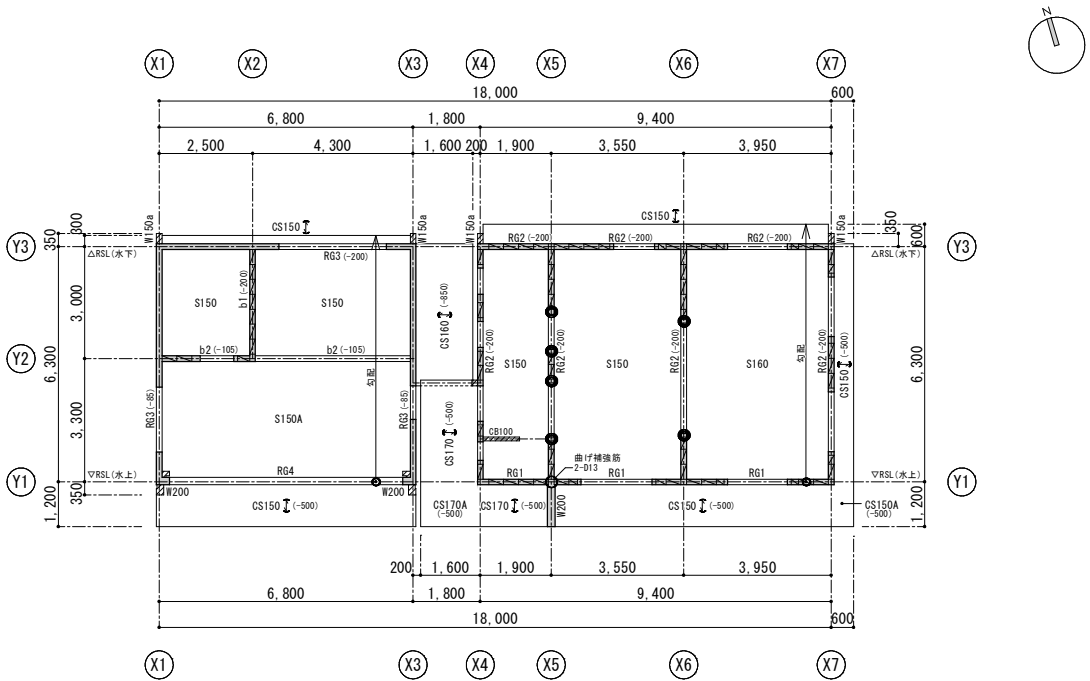
工事名称	東村産業支援住宅新築工事【C棟】			工事年度	令和8年度	
工事場所	沖繩県東村字有銘499番2			図面名称	土質柱状図	
免注機関	東村役場 農林水産課			縮 尺	A1＝1：100 A3＝1：200	
摘 要				図面番号	S－005	
検 印	管理建築士	設 計	製 図	設 計 者	名 称	有限会社 結 設 計
					資格者氏名	又 吉 大輔 第369342号
					登録番号	第123-3734号
					所 在 地	名護市宮里三丁目29番15号



基礎伏図、1階床梁伏図

SCALE 1/100 (A1)、1/200 (A3)

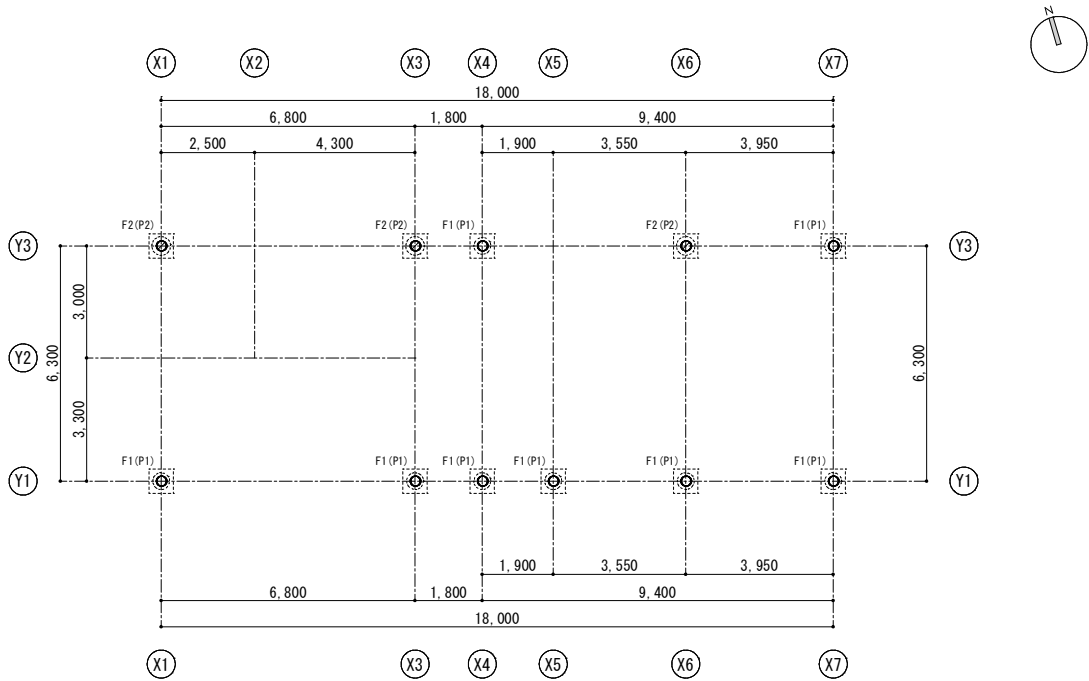
- 共通事項
- 特記なき地中梁天端は GL±0 とする
  - 特記なき1階床は土間コンクリートとする
  - 土間コンクリート天端レベルは意匠図による
  - は土間コンクリート範囲を示す



1階壁、R階梁伏図

SCALE 1/100 (A1)、1/200 (A3)

- 共通事項
- 特記なき壁は W150 とする
  - は CB150 を示す
  - 特記なき梁、ｽﾗﾌﾞ天端は RSL(水上)=GL+3,500 RSL(水下)=GL+3,300 とする
  - ( )内数値はRSL(水上)からの部材天端レベルを示す
  - は雑壁を示す
  - は主筋方向を示す
  - 部分は 曲げ補強筋：1-D16 とする



杭伏図

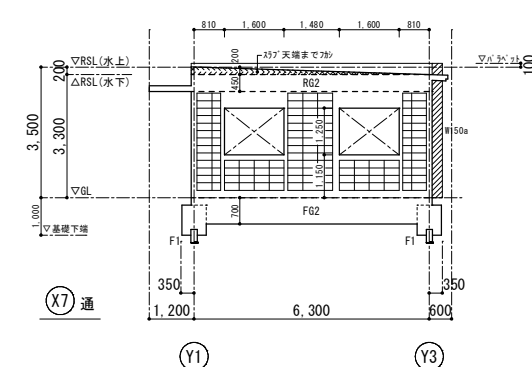
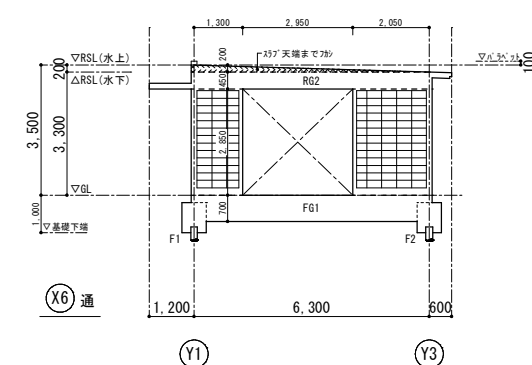
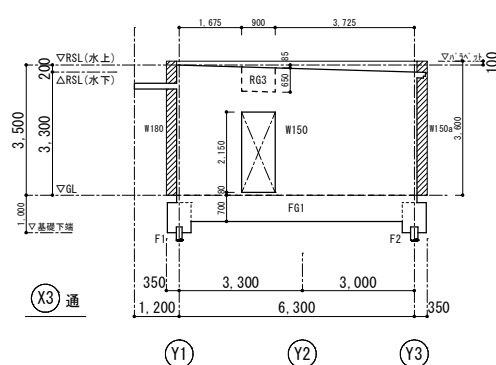
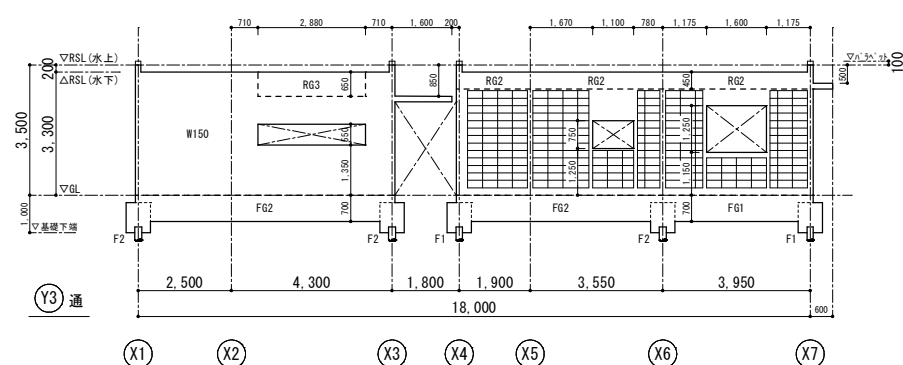
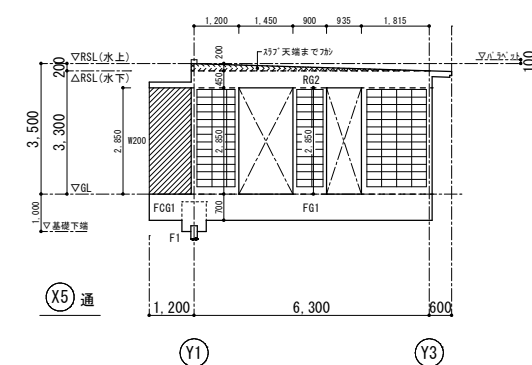
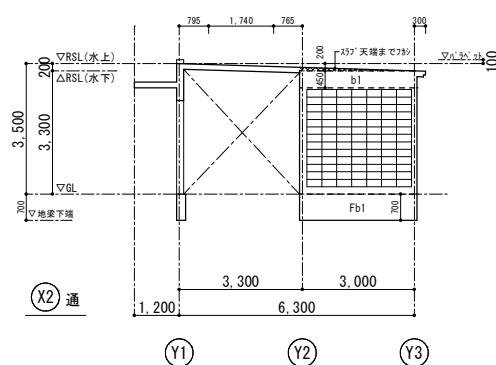
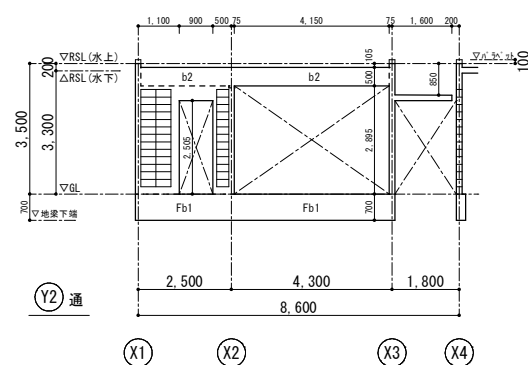
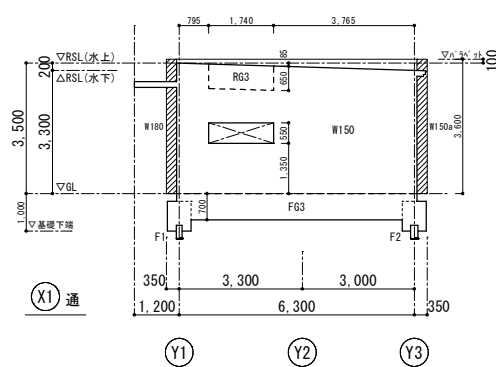
SCALE 1/100 (A1)、1/200 (A3)

- 共通事項
- 杭種：回転貫入鋼管杭
  - 杭工法：ガイアF1ﾊﾞｲﾙ工法
  - 特記なき杭頭レベルは 設計GL-850 とする
  - 杭仕様は 右表による
  - 杭施行は管理指針に基づいて適切な管理を施す

杭仕様 特記事項：(1). 鋼管杭の材質は、STK490 とする (2). 先端羽根の材質は、SM490A とする										
符 号	記 号	杭 径	鋼管厚		羽根径	羽根厚	全杭長	長期許容支持力 (kN/本)	本 数	杭頭補強筋
P1	○	165.2φ	上 杭	7.1mm	450φ	t=25	全 長：8.20m	300	8	4-D13
			中下杭	7.1mm			上 杭：2.20m 中下杭：6.00m			
P2	⊙	190.7φ	上 杭	7.0mm	500φ	t=25	全 長：8.20m	380	3	4-D13
			中下杭	7.0mm			上 杭：2.20m 中下杭：6.00m			
合計									11	

ライサスー級建築士事務所 戸 倉 雅 幸  
一級建築士 建設大臣登録 第 250479 号  
構造設計一級建築士証 交付番号 第 7531 号

工事名称	東村産業支援住宅新築工事【C棟】	工事年度	令和8年度
工事場所	沖縄県東村字有銘499番2	図面名称	杭配置図、基礎伏図、1階床伏図・1階壁R階壁伏図
発注機関	東村役場 農林水産課	縮 尺	A1=1:100 A3=1:200
摘 要	図面番号 S-101		
検 印	管理建築士	設 計	製 図
設 計 者	名 称	有限会社 結 設 計	
	資格者氏名	又 吉 大 輔 第369342号	
	登 録 番 号	第123-3734号	
	所 在 地	名護市宮里三丁目29番15号	



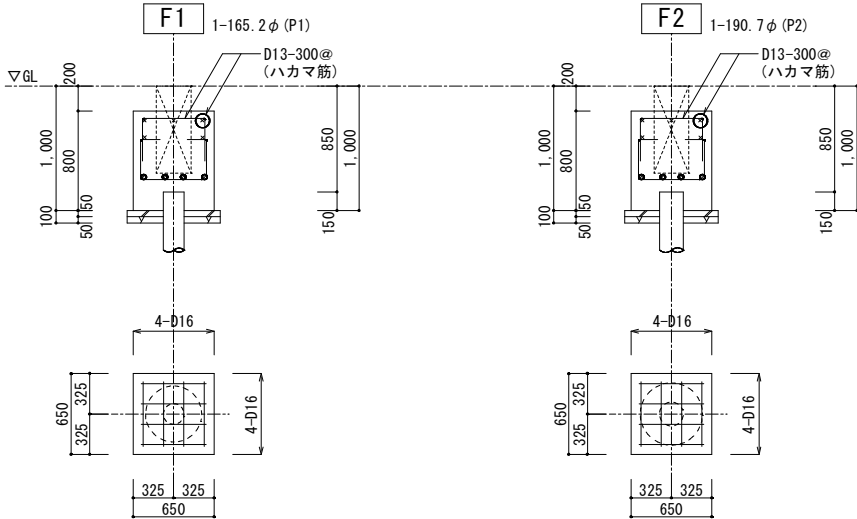
ライサス一級建築士事務所 戸 倉 雅 幸  
一級建築士 建設大臣登録 第 250479 号  
構造設計一級建築士証 交付番号 第 7531 号

工事名称		東村産業支援住宅新築工事【C棟】		工事年度	令和8年度	
工事場所		沖縄県東村字有銘499番2		図面名称	軸組図	
発注機関		東村役場 農林水産課		縮 尺	A1=1:100 A3=1:200	
摘 要				図面番号	S-201	
検 印	管理建築士	設 計	製 図	設 計 者	名 称	有限会社 結 設 計
					資格者氏名	又吉 大輔 第369342号
					登 録 番 号	第123-3734号
					所 在 地	名護市宮里三丁目29番15号

基礎 リスト

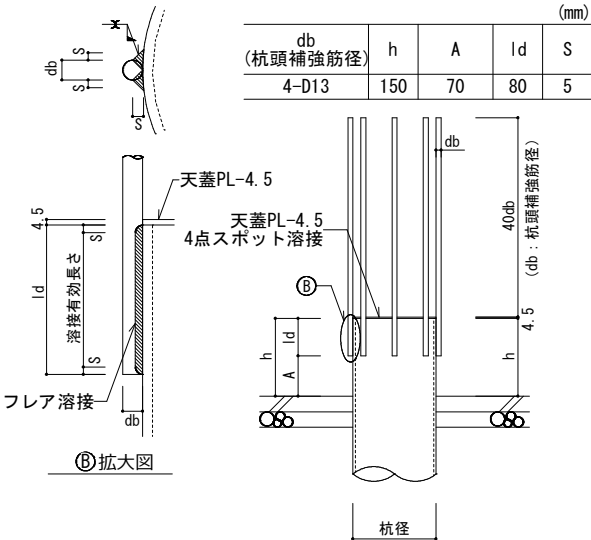
SCALE 1/30 (A1)、1/60 (A3)

特記なき限り  
1. コンクリート材質 Fc24N/mm<sup>2</sup> 2. 鉄筋材質 D13、D16 : SD295



杭頭補強要領

SCALE S=1/non



土間コンクリート配筋図

SCALE 1/30 (A1)、1/60 (A3)

※約3.0m毎に収縮目地を設けること  
※碎石撒き出し前に、原地盤の転圧を行い、十分締め固めること



基礎梁 リスト

SCALE 1/30 (A1)、1/60 (A3)

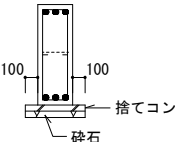
特記なき限り  
1. コンクリート強度 Fc=24N/mm<sup>2</sup> 2. 鉄筋材質 (主筋)D16 : SD295 D19 : SD345 (スターラップ)D10 : SD295 3. 幅止め筋 D10-@1,000  
4. 基礎梁主筋の継手はかぶり厚さを確保できる場合、重ね継手を可とする  
ただし、梁せい方向にずらして重ね継手は負荷とする

符 号	FG1	FG2	FG3	FCG1	Fb1
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面					
上端筋	3-D16	5-D16	5-D19	3-D16	2-D16
下端筋	3-D16	5-D16	5-D19	3-D16	2-D16
S T P	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200	□-D10-@200
腹 筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10
備 考	—	—	—	—	—

共通事項(基礎梁)

SCALE 1/non

共通事項  
1. 特記なき限り下記による



ライサス一級建築士事務所 戸 倉 雅 幸  
一級建築士 建設大臣登録 第 250479 号  
構造設計一級建築士証 交付番号 第 7531 号

工事名称	東村産業支援住宅新築工事【C棟】	工事年度	令和8年度
工事場所	沖縄県東村字有銘499番2	図面名称	基礎・基礎梁リスト
発注機関	東村役場 農林水産課	縮 尺	A1=1:30 A3=1:60
摘 要	図面番号 S-301		
検 印	管理建築士	設 計	製 図
	資格者氏名	又吉 大輔	第369342号
	登 録 番 号	第123-3734号	
	所 在 地	名護市宮里三丁目29番15号	



壁梁 リスト

SCALE 1/30 (A1)、1/60 (A3)

特記なき限り

1. 鉄筋材質 (主筋)D13、D16 : SD295 D19 : SD345 (スラップ)D10 : SD295 2. 幅止め筋 D10@1,000

符 号	RG1	RG2	RG3	RG4
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面
R 階				
上端筋	2-D13	2-D13	2-D16	2-D19
下端筋	2-D13	2-D13	2-D16	4-D19
S T P	C-D10-@200	C-D10-@200	C-D10-@200	□-D10-@200
腹 筋	2-D10	1-D10	2-D10	8-D10
備 考	—	—	—	—

壁 リスト

SCALE 1/30 (A1)、1/60 (A3)

特記なき限り

1. 鉄筋材質 (主筋)D10～D13 : SD295 2. S:シングル TD:チドリダブル D:ダブル 3. 幅止め筋 D10@1,000

符 号	CB100	CB150	W150a	W150	W200
断 面 (鉛直断面)					
縦 筋	D10@400 (S)	D10@400 (S)	D10@200 (S)	D13@200 (S)	D10@200 (D)
横 筋	D10@600 (S)	D10@600 (S)	D10@200 (S)	D10@200 (S)	D10@200 (D)
開 口 補強筋	縦	1-D13	1-D13	2-D13	2-D13
	横	—	1-D13	2-D13	—
	斜め	—	—	2-D13	—

WRC壁	開口部補強筋要領図	曲げ補強筋要領図	CB壁	※CB150以下の耐力壁縦筋は空洞部内で重ね継ぎをしてはならない。
※縦補強筋は曲げ補強筋と同様の定着・継手とする				
※一般階の場合直線定着可	※基礎梁の場合は「S-003、S-004」参照			

小梁 リスト

SCALE 1/30 (A1)、1/60 (A3)

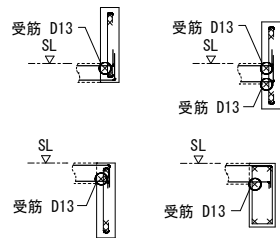
特記なき限り

1. 鉄筋材質 (主筋)D16 : SD295 D19 : SD345 (スラップ)D10 : SD295

符 号	b1	b2
位 置	全断面	全断面
R 階		
上端筋	2-D16	2-D19
下端筋	2-D16	2-D19
S T P	C-D10-@200	C-D10-@200
腹 筋	1-D10	1-D10
備 考	—	—

スラブ筋受要領

SCALE 1/non



スラブ リスト

SCALE 1/non

特記なき限り

1. 鉄筋材質 D10、D13 : SD295

記 号	厚 さ	位 置	短 辺 方 向	長 辺 方 向	備 考
S150	150	上端筋	D10、D13@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
S150A	150	上端筋	D10、D13@200	D10、D13@200	
		下端筋	D10、D13@200	D10@200	
S160	160	上端筋	D10、D13@200	D10、D13@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	

片持スラブ リスト

SCALE 1/non

特記なき限り

1. 鉄筋材質 D10、D13 : SD295

記 号	厚 さ	位 置	短 辺 方 向 (主筋方向)	長 辺 方 向 (配筋方向)	備 考
CS150	150	上端筋	D10、D13@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
CS150A	150	上端筋	D10@100	D10@100	
		下端筋	D10@100	D10@100	
CS160	160～150	上端筋	D10、D13@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
CS170	170～150	上端筋	D13@150	D10@200	
		下端筋	D10@150	D10@200	
CS170A	170～150	上端筋	D10@100	D10@100	
		下端筋	D10@100	D10@100	

ライサスー級建築士事務所 戸 倉 雅 幸  
一級建築士 建設大臣登録 第 250479 号  
構造設計一級建築士証 交付番号 第 7531 号

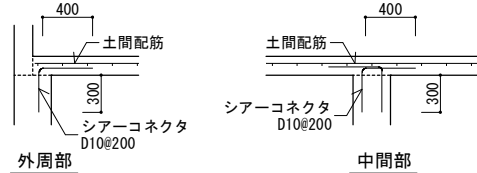
工事名称	東村産業支援住宅新築工事【C棟】	工事年度	令和8年度
工事場所	沖縄県東村字有銘499番2	図面名称	壁梁・小梁・スラブ・壁リスト
発注機関	東村役場 農林水産課	縮 尺	A1=1:30 A3=1:60
摘 要		図面番号	S-302
検 印	管理建築士	設 計	製 図
		名 称	有限会社 結 設 計
		資格者氏名	又 吉 大 輔 第369342号
		登 録 番 号	第123-3734号
		所 在 地	名護市宮里三丁目29番15号

部分詳細図

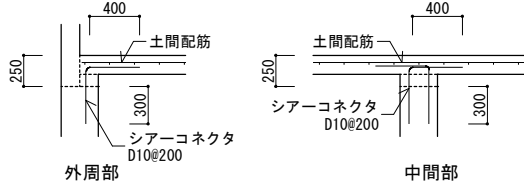
SCALE 1/30 (A1)、1/60 (A3)

土間コンクリートと基礎梁の接合要領 1/30 (A1)、1/60 (A3)

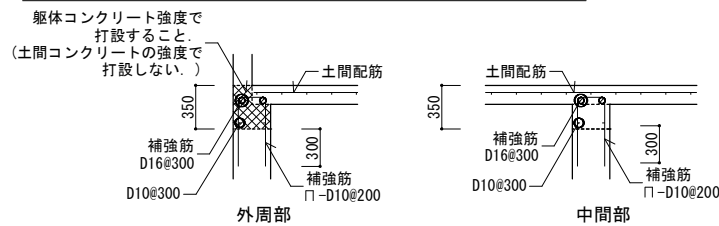
置きスラブ形式の場合



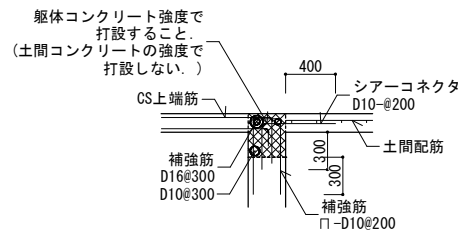
土間コンクリート天端と基礎梁天端のレベル差が250mm以下の場合



土間コンクリート天端と基礎梁天端のレベル差が350mm以下の場合

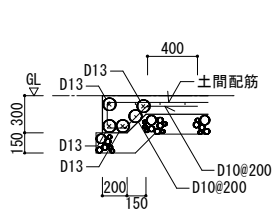


片持ちスラブと土間コンクリートの場合の取合い

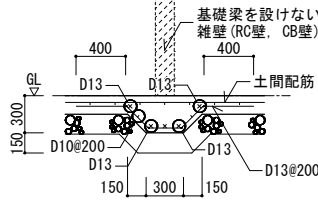


土間コンクリート補強要領 1/30 (A1)、1/60 (A3)

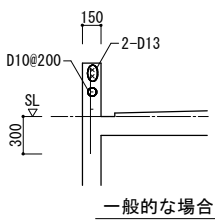
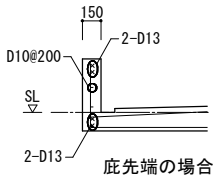
外周部 補強要領



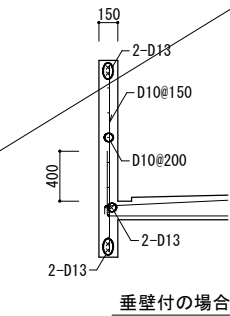
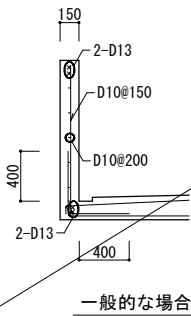
雑壁下部 補強要領



パラペット配筋図 1/30 (A1)、1/60 (A3)



手摺り配筋詳細図

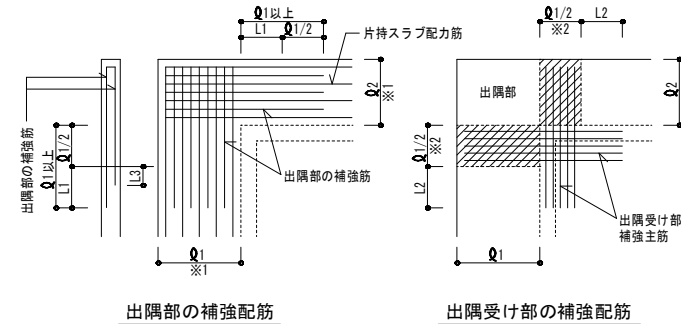


片持スラブ出隅部補強要領

1/non

- ① 出隅部分(※1)の補強筋は、上下端筋共D10を配筋筋の間に挿入する。定着は下図による。  
② 出隅受け部(※2)の主筋は  $Q1/2$  の範囲に配筋をし、主筋は5-D13 ( $Q1 \leq 2000$ ) とするが  $Q1 > 2000$  の場合は特記による。

[注]  $Q1 \geq Q2$  とする。



増打コンクリート補強要領 1/30 (A1)、1/60 (A3)

増打コンクリート補強要領共通事項

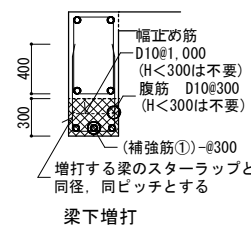
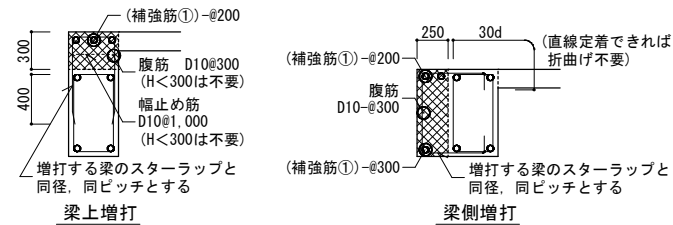
- (a) 増打コンクリートの補強は、原則、以下の要領による。  
但し、増打高さ(H)または増打幅(W)が100mm以下の場合無筋でもよい。  
(b) 軸方向補強筋(柱または梁の主筋と並行する鉄筋。以下、補強筋①と記す。)は、増打する柱または梁の主筋に応じて以下の鉄筋を使用する。

軸方向補強筋(補強筋①)

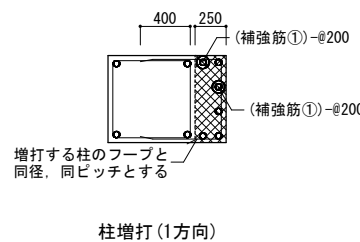
柱または梁の主筋	補強筋①	材質	備考
D16~D22	D16	SD295	
D25、D29	D19	SD345	
D32以上	D25	SD345	

- (c) 軸方向補強筋(補強筋①)の定着は、15d(d:鉄筋の呼び径)とする。

梁 増打コンクリート補強要領



柱 増打コンクリート補強要領



ライサス一級建築士事務所 戸 倉 雅 幸  
一級建築士 建設大臣登録 第 250479 号  
構造設計一級建築士証 交付番号 第 7531 号

工事名称	東村産業支援住宅新築工事【C棟】	工事年度	令和8年度
工事場所	沖縄県東村字有銘499番2	図面名称	部分詳細図
発注機関	東村役場 農林水産課	縮 尺	A1=1:30 A3=1:60
摘 要		図面番号	S-401
検 印	管理建築士	設 計	製 図
		名 称	有限会社 結 設 計
		資格者氏名	又 吉 大 輔 第369342号
		登 録 番 号	第123-3734号
		所 在 地	名護市宮里三丁目29番15号